

労使研

「情報」第57号 2019年9月

労使関係研究協会
〒105-0014東京都港区芝2丁目
20番12号（友愛会館8階）
電話：03-3453-5386
FAX：03-3451-1710
関西支局
〒550-0001大阪市西区土佐堀
1丁目6番3号
（JAM西日本会館内）
電話：06-6225-2881

友愛会創立107周年記念パーティー

2019年8月1日、友愛会創立を記念する会主催の「友愛会創立107周年記念パーティー」が開催されました。129人が参加しました。



▲来賓あいさつ(左から)
連合・逢見直人会長代行
民社協会・原健太郎事務局長
政策研究フォーラム・谷藤悦史理事長

▶司会 木暮弘事務局長(UAゼンセン)
乾杯 松浦昭彦副会長(UAゼンセン)



◆友愛会創立を記念する会107周年記念パーティー

主催者代表あいさつ

高木剛友愛会創立を記念する会会長

選挙ではJAMの皆様、基幹労連の皆様、電機連合の皆様、その心情たるやいかばかりかとお察し申し上げます。また選挙を頑張られた皆様、ご苦労様ございました。

選挙戦を通じて安倍自民党総裁、総理大臣は安定化、混迷化と言いきり、民主党時代の政権が混迷の政権だったということを国民にすり込もうとしていました。じゃ、森友はどうなったんだ、加計はどうした、あるいは公文書改ざん問題は、どれ一つきちんとけじめのついた問題はあります。野党はまさに、言われ放しでした。

野党に、将来政治を展望する気概あるいは意気込みがあるのか。そのことを問わざるを得ないと思います。野党第1党が、第2党が、というそんな話をしているうちは政権なんて近づいてきません。

こんな状況を続けておりますと107年の歴史を経てきた日本の労働運動あるいは連合も30年。連合になって一体的対応ができるようになったと、そういう一体的対応も今の状況では壊れつつあります。労働組合の側の運動もおかしくなってしまうのではないかと心配をいたしております。

来賓あいさつ

逢見直人連合会長代行

今年はILO創立100年という年で、6月13日からILO総会が開かれまして、私も日本の労働者代表として参加をしてまいりました。100年前の第1回総会に、鈴木文治さんは参加しましたが、国の労働者代表として出席をすることができませんでした。

今年の総会では第190号条約、職場におけるハラスメントと暴力の根絶についての条約が採択をされました。これからこの条約を批准して国内法をさらに整備する必要があると思っています。もう一つ、創立宣言あるいはフィラデルフィア宣言を踏まえた100周年記念宣言を採択しました。連合の運動の中に取り込んでいきたいと思っております。

もう1点は参院選挙でございます。参院比例区に連合から10人出て、8人の当選でした。残念な結果でした。選挙の仕組みの問題もありますが、割り切れないところがございます。

今回、令和新選組とNHKから国民を守る会、この二つが政党要件を満たしたということで新たな政党ができた。あれだけの人が票を入れたという意味を考えなきゃいけない。安倍政権に対する一矢を報いる気持ちだったんだろうと。野党がそういうものを受け止められていないし、連合としては左右の全体主義を排し、そしてポピュリズムに陥ることなく持続可能な政策ということを考えながら、やっていきたいと思っております。

原健太郎民社協会事務局長（小林正夫代表代理）

参院選挙後の臨時国会の召集日で、諸会議等目白押しの状態で、先ほど小林代表から「時間の都合がつかなくなった」という旨の連絡が入りました。誠に申し訳ありません。

ここに小林会長からメッセージを預りました。友愛会が107年前に創設され現在まで脈々とその精神が引き継がれていることはまさに顕彰されなければなりません。友愛会が総同盟、全労、同盟と引き継がれ37年前に全民労協、30年前に連合が設立されて、現在へと発展してまいりました。私たち民社協会は設立から25年、民社党結党から60年。民主的労働運動と足並みをそろえて、活動を続けております。

今回の参院選挙は連合が統一して推薦すべき産別出身者の候補を、国民民主党と立憲民主党とに分かれねばならなかったことは、連合結成後の大きな課題を残したことになります。国民民主党にとって、初めての国政選挙であり、政策理念の違う野党共闘は課題を残したとも考えております。国民民主党は自由、共生、未来への責任を掲げ、諸問題に現実的に向き合う改革中道政党として結党しました。友愛・民社協会の精神を引き継いでいる唯一の党であり、そういう立場で民社協会の活動を続けて参ります。

谷藤悦史政研フォーラム理事長

私は民主党政権時代に国の政策評価審議会の委員になりまして、足掛け10年くらいやっておりました。その中で、公文書館のあり方という議論が政府内で高まってきました。現在の公文書館が資料で満杯で、最初は公文書館の縮小という方針の中で、整理統合を進めるという話が出てまいりました。

日本の歴史というものをたどるうえで公文書館は極めて大切で、これは何とかして阻止しようと押し問答をし、最終的には公文書館を新たに設立するという流れになりました。現在の憲政記念館を取り壊し、そこに新しい日本の公文書館が建てられます。結果的に現在の尾崎記念財団や、国会博物館も縮小して公文書館の中に入れることになっています。現在の憲政記念館の前身は、議会政治の父・尾崎行雄を記念する尾崎記念会館で、1960年に設立、10年後にリニューアルされて現在の憲政記念館となりました。この建物は広島市の平和の灯や、長崎市の平和の泉と同じように国民運動を展開して作ったものです。憲政記念館も党派に関係なく若手の政治家を育成しようということで、全国から浄財を集めて、尾崎記念会館を作ろうとしたが、資金が足りませんでした。その時に、最後にひと押ししたのが、松岡駒吉さんでした。松岡駒吉さんは片山内閣で47年から48年にかけて、衆院議長をやっております、議会政治の大切さを、実感していたわけです。松岡さんが全国を、小中学校を歩き回って浄財を呼び掛けました。小学生、中学生の5円や10円の基金を集めて、その一部が尾崎記念会館の設立につながったわけです。松岡さんは58年に、尾崎記念会館の完成を見ることなく亡くなってしまいました。憲政記念館はあと1年くらいしかありません。友愛会を思い出しながら、訪れていただきたいと思っております。

単なる党派だけのイデオロギーにとどまらず、この友愛会を育ててきた多くの政治家の皆さんは、それから大きな国民運動といわれるもの、議会政治というものを育てるためにそのような運動を続けてきたわけでございます。国民民主党が、将来の日本の新しい国民運動を展開できる要となるような政党に育っていただきたい、そのために陰ながら応援していきたいというのが政策研究フォーラムの立場でございます。

◆友愛労働歴史館の活動(2019年1月～8月)

友愛労働歴史館は展示会(常設展・企画展)活動や、これに連動した講演会・労働講座の開催を行っている。

I 展示会・講演会活動について

1. 展示会(常設展・企画展)活動

友愛労働歴史館の常設展「日本労働運動の100年余—友愛会・総同盟(戦前)を中心とする」は、2012年8月1日の新装オープン以来、原則同一テーマで開催し、折々に一部の展示をリニューアルして、今日に至っている。

企画展は年2回(上期、下期)、テーマを決めて開催している。1月7日から民社党結党60年を記念し、企画展「民社党結党60年—勤労国民政党的旗を掲げて—」(2019.1.7～06.28)を開催した。

下期は協調会結成100年を記念し、協調会とそれを主導した渋沢栄一(実業家、日本近代資本主義の父)を取り上げ、企画展「協調会結成100年—渋沢栄一と鈴木文治・友愛会—」(2019.7.4～12.24)を開催している。

<友愛労働歴史館企画展>

①「民社党結党60年」展

と き：2019年1月7日(月)～同年6月28日(金)

ところ：友愛労働歴史館・展示室

テーマ：企画展「民社党結党60年—勤労国民政党的旗を掲げて—」

内 容：第1部「民社党前史—社会民衆党から日本社会党までの35年」

第2部「民社党の結党—その理念、組織、政策、活動」

第3部「民社党の解散—新進党・民主党への合流、民社協会の結成」

②「協調会結成100年」展

と き：2019年7月4日(木)～同年12月24日(火)

ところ：友愛労働歴史館・展示室

名 称：企画展「協調会結成100年—渋沢栄一と鈴木文治・友愛会—」

内 容：第1部「協調会27年略史—1919年～1946年」

第2部「協調会と渋沢栄一・添田敬一郎—1919年～1931年—」

第3部「渋沢栄一と鈴木文治・友愛会—1919年～1931年—」

2. 講演会活動

企画展と連動させた講演会・労働講座を、労使関係研究協会その他の団体と共催、もしくは単独で開催している。2019年に以下の講演会・労働講座を開催した。

名 称：友愛会創立記念労働講座(友愛会創立を記念する会と共催)

と き：2019年8月1日(木) 11:00～11:45

ところ：友愛労働歴史館・研修室

テーマ：「渋沢栄一と鈴木文治・友愛会」

講 師：間宮 悠紀雄 友愛労働歴史館事務局長

II 資料の収集・管理作業、調査・研究活動について

友愛労働歴史館は、年間を通して資料の収集を行っている。また、必要な調査・研究活動に取り組んでいる。

1. 資料の収集・管理

2019年3月、電力総連関係者から新進党その他の資料の寄贈を受けた。また、連合関係者から民社研全国研究集会報告書など、さらに旧鉄労関係者から社会運動関連資料などの寄贈を受けた。

2. 調査・研究活動

友愛労働歴史館は「ユニテリアンと社会運動研究会」と「政治・社会運動史研究会」の2つの常設委員会を設置し、調査・研究活動を行っている。また随時、必要な研究会を設けて調査・研究活動に取り組んでいる。

①「第19回政治・社会運動史研究会」

テーマ：「和田春生を語る—一生誕100年・没後20年」

と き：2019年3月19日(火) 14:00～16:00

ところ：友愛労働歴史館・研修室

講 師：「政治家・和田春生を語る」 梅澤 昇平 尚美学園大学名誉教授

「労働運動家・和田春生を語る」 間宮悠紀雄 友愛労働歴史館事務局長

②「第20回政治・社会運動史研究会」

テーマ：「民社党時代を語る」(共通テーマ)

と き：2019年5月10日(金) 15:00～16:30

ところ：友愛労働歴史館・研修室

講 師：山口 哲雄 元宮崎県議、元米沢隆民社党委員長秘書

③井堀繁雄研究会

梅澤昇平氏(当館研究員、尚美学園大学名誉教授)とともに、井堀繁雄(労働運動家・協同組合運動家・政治家、日本労働会館理事長)が残した手帳のデジタル化作業に取り組んでいる。

Ⅲ 情報発信・PR活動について

友愛労働歴史館はインターネット上でメールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信、ホームページHPでの情報提供・PRなどに取り組んでいる。また、研究者・学生らへの相談対応、資料提供などに取り組んでいる。

1. メールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信

メールレポート「友愛労働歴史館たより」第140号を2019年1月25日に発信した。その後、2月22日、3月25日、4月26日、5月27日、6月25日、8月1日にそれぞれ発信し、8月30日に同「友愛労働歴史館たより」第147号を発信した。また、当館はEメールを活用し、必要な情報をメールアドレス登録者に随時、発信している。2019年8月末現在のメールアドレス登録者は約1250名である。友愛労働歴史館Eメールアドレス yuairodorekishikan@rodokaikan.org

2. 友愛労働歴史館ホームページの開設

友愛労働歴史館は情報提供用にホームページHPを開設しており、随時更新している。友愛労働歴史館HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

3. その他

- ①友愛労働歴史館の非公式ツイッター（@yuaireshiki1912）を開設、随時更新し、情報を発信している。
- ②友愛労働歴史館の常設展チラシ、企画展チラシ、その他を活用し、紙媒体でのPR活動を行っている。

Ⅳ その他

- ①NPO法人働く文化ネット（総評会館）の労働映画鑑賞会（毎月1回・第二火曜日）に参加、協力した。
- ②2019年1月10日と25日、慶応大学の考古学研究者により旧ユニテリアン教会・惟一館（明治27年竣工。現在の友愛会館）の煉瓦塀の煉瓦の調査が行われた。
- ③社会運動資料のリユースを行う労働資料協（社会・労働関係資料センター連絡協議会）の「デジタルアーカイブ実務セミナー」が6月22日（土）、東京・本郷の東京大学大学院経済学研究科小島ホールで開かれた。友愛労働歴史館から安部千恵さんが参加した。
- ④友愛労働歴史館グッズとしてボールペン（定価200円。「友愛労働歴史館（友愛会館）」の刻印入り）を制作し、販売中。

◆労使関係研究協会の活動（2019年1月～8月）

第90回講演会

月 日 2019年2月26日（火）

テーマ 「平成の春闘と労使関係の将来」

講師 荻野 登 氏（JILPT労働政策研究所副所長）

- 1. 平成の始まりと終わりに直面する類似した課題
 - (1) 平成時代には解決されなかったセクハラと過労死
 - (2) 歴史的転換点となった「1986年」＝課題が30年前と極めて類似
 - (3) すでに織り込み済みだった人手不足に起因する課題
- 2. 21世紀に入って顕在化してきた労使関係上の変化
 - (1) 労使関係をめぐる環境変化
 - (2) いつが結節点だったのか（1997年）
 - (3) 3つの過剰「債務・雇用・設備」の解消が優先課題
 - (4) なぜ労使は賃上げに慎重なのか
 - (5) 2014年以降の賃金引き上げの推移
- 3. これからの春闘の課題と展望
 - ・月例賃金か賞与か
 - ・賃金以外の要求・交渉
 - ・試される産別の「求心力」と「波及力」
 - ・高齢者の継続雇用・定年延長で先導役を
- 4. 技術革新の進展と雇用システムの行方
 - (1) J I L P T第3期「雇用システムと法」プロジェクトでの成果
 - (2) 第4次産業革命・技術革新の進展と雇用システムの将来像
 - (3) 職場で働く人すべてを射程に入れた話し合いが重要に＝過半数代表の選出は適正か？



荻野登氏は旧日本労働協会に勤務され週刊労働ニュース編集長などを務められた。現在では労働政策研究・研修機構（JILPT）の副所長として活躍されている。

参加者 24人

第91回講演会

月 日 2019年5月22日(水)

テーマ 「参議院選挙と政局の行方」

講師 塩田 潮 氏 (ノンフィクション作家・評論家)

安倍内閣は高い支持率を続けているが、今回の参議院選挙は非常に強い危機感を持っている。

①今年には12年に1度の猪年で、統一地方選挙と参議院選挙が重なる。95年は新進党に敗北、07年は民主党に大敗を喫している。更に改元の年は昭和も平成も自民党は不振となっていること。

②に国内外の情勢が不安定で政権にとって追い風ではない。外交案件で、1) 日露交渉の北方領土問題で2島返還と譲ったのに成果がなく、北朝鮮問題でも進展がなかったこと、2) 米中関係も悪化を続けており日本も大きな影響が避けられないこと、3) 憲法問題も衆参両院での2/3の議員確保の問題等自民党にとっても安閑とはしていない情勢であること。

野党としては、2017年総選挙の比例票で自民党を上回っており、徐々に信頼回復も見えてきていること。1人区の統一候補擁立で自民一強の選挙区で一騎打ちに持ち込むことが必要。

講師は、「霞が関が震えた日」で講談社ノンフィクション賞を受賞するなど、多くの政治関係の著作を出版されている。

参加者 39人



第92回講演会

月 日 2019年5月28日(火)

テーマ 「働き方改革とこれからの課題」

講師 熊谷 謙一 氏 (ILO活動推進日本協議会企画委員、元連合労働法制対策局長)

一昨年1月に私共の労働講座で、熊谷氏から「働き方改革と労働法制の展開～「前川レポート」の時代とその後の動向～」について講義を受けた。

内容は1987年の週40時間労働法制化をめざして、日本の労働界が総力を挙げた取組の、当時民間連合の担当責任者の報告であった。

当研究協会では、今後の日本における働き方、雇用システムの変化について研究活動を続けており、その一環としての企画となった。

週40時間労働実現後の残された課題について、連合を中心としていろいろな取り組みがあり、そして昨年の安倍内閣による働き方改革があった。しかし労働時間の上限規制や勤務間インターバルなどの法改正を実現したが、私たちにとっては満足のものではない結果で終わっている。今回はその反省も踏まえ、今後の労働力不足、技術革新の加速化、経済・産業のグローバル化など見通される中で、集团的労使関係の再構築、超少子高齢化への対応、第4次産業革命への対応、外国人労働者への対応など、私たちが考え、取り組んでいかなければならない課題について講義を受けた。

参加者 15人



「きずな」寄稿のお願い

会員交流誌「きずな」は労使研会員各位の交流を一層充実させることを目的に、2006年の発刊以来、今回で17号をむかえることとなりました。会員の自由な作品の発表や、紙面を通じた建設的な意見交換など、ジャンルを問わない掲載内容としておりますので、積極的なご寄稿をいただければ幸いです。

- 掲載内容：特にテーマは定めません。労使関係、労働分野はもとより、政治、経済、社会、文化、紀行、趣味、娯楽など、専門分野も含めた全般とし、ジャンルを問いません。また記事や小説・詩歌等の作品、写真、イラスト、漫画の投稿も歓迎いたします。
- 字数：原則として1ページ（1,200字まで）または2ページ（2,400字まで）の二通りとしていますが、自由に執筆いただいて結構です。
- 原稿締切：2019年11月8日（金）
- 送付先：労使関係研究協会（電話番号：03-3453-5386）
担当 滑川太一
- メールアドレス： roshiken@rodokaikan.org
- 郵送：〒105-0014 東京都港区芝2-20-12 友愛会館8階
- FAX：03-3451-1710



Roshiken.net